

**日本の高校生がグレー＝シュル＝ロワン市を訪問****芸術：日本への文化的架け橋**

(原文左上) グレー＝シュル＝ロワン市 (以下, グレー市) 訪問は, (研修旅行でフランスを訪問した高校生にとって, ) 数多くの素描画がある旅行日誌の中で, 重要な旅程の一つであった。日本の高校生たちが, 画家黒田清輝と, グレー市と鹿児島県のつながりの足跡をたどることができた。

高校生たちはグレー市から 10 キロ離れたところ (フォンテンヌ・ブロー) に滞在していたが, 皆がガティネ地方のグレー市を訪れることを夢見ていた。この高校生とは, 日本の南にある鹿児島県の松陽高校の美術科の生徒である。フランスでの滞在はたった 5 日間しかなかったが, バルビゾン, シャイイ＝アン＝ビエールにあるミレーのお墓, フォンテーヌブロー宮殿やパリのルイ・ヴィトン美術館への訪問前に, グレー市へのまたとない訪問の機会を逃すことはなかった。

**写真：鹿児島美術科の 32 人の生徒と教員 (実際は 38 人の生徒と 3 人の引率職員) が, 日本の有名な画家黒田清輝の足跡をたどってグレー市を東の間の訪問**

**Un pèlerinage : 巡礼**

フランスの文化のみならず, 1890 年から 1930 年 (実際は 1892 年) の間グレーに滞在した鹿児島出身の日本人画家, 黒田清輝の原点も発見するために来た若い芸術家たちにとって, 何と貴重な旅程だったことであろうか。黒田は帰国後, 近代日本洋画の先駆者のひとりになった。日本の高校生たちとのグレー訪問が 3 回目となる教員の一人, 前村氏は, 2001 年に黒田が住んでいた家を特定し, 黒田の名を通りに付けることに貢献している。

**Pendant ce temps à Kagoshima : 一方 鹿児島では**

(「黒田清輝通り」の命名については, ) グレー市と日本の関係をつなぐ親善大使と言える, (フランス在住の) モアンヌ前田恵美子氏と (当時海外派遣留学生だった) 前村氏との懸命な調査により実現に至った。モアンヌ前田恵美子氏は, グレーの Jean Lucan 市長からの手紙を日本の鹿児島県知事に直接手渡すために, (鹿児島に滞在中だったので, ) 松陽高校生のグレー市庁舎訪問に同

行できなかった。市長の手紙には、両市の友愛が記され、「グレー市の古くからある橋のような、文化的架け橋」と書かれている。グレー市長は、鹿児島県知事を2019年2月の大きな行事に招待している（囲み記事参照）。

（グレー市と松陽高校との交流式典では、）グレー市と鹿児島島の歴史的なつながりを祈念し、（副市長の）Marie-Nicolas Cook と（市の職員である）Christophe Ligere は、日本の高校の教頭である内園優子氏と（美術科教員である）前村氏に市の勲章を授与した。前村氏は、彼の生徒たちと同様に、フランスの大きな美術館やヨーロッパの美術館にも例を見ないような日本作品のコレクションを誇る市美術館に、新たな作品を提供している。これは、グレー市に2年前から住んでいる荒田光さんの支援のおかげで可能になった感動的な交流だ。式典の直後、生徒たちはグレー市のいくつかの家や狭い道からの見晴らしをすぐさまスケッチした。それらのスケッチは帰国してすぐに彼らの新しいインスピレーションに貢献することであろう。

#### （囲み記事）2018年は日本からグレーへ

2018年6月から2019年2月の期間に行われるフランスと日本の外交的・文化的な国交の160周年の記念祭に、日本の庭園をテーマにした10の庭で、漫画やコスプレの文化に関する若者のためのフェスティバルなどの開催が予定されている。その間グレー市は（日本のために）1年をかけて準備しており、この式典の終了地点は疑いなく2019年2月に開催される、《黒田清輝の足跡を訪ねて、グレー＝シュル＝ロワン市の21世紀の日本人画家たち》という題を付けられた展示会となるであろう。この両国の友愛の回顧展では、2001年から、グレー市に滞在した海老原賞（・吉井賞）を受賞した13人の日本人画家によって市の美術館に寄贈された作品が展示されることになっている。そして、もちろん2017年の研修生としてグレー市を訪問し、才能に国境はないと証明した鹿児島の高校生たちの作品も展示されることになる。